

第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月11日(木) 4校時
児 童 1年生13名(男子8名, 女子5名)
指導者 日 山 美 津 代

1 単元名 おんどくげきをしよう

教材名 「くじらぐも」 なかがわ りえこ 作 (光村図書 1年下)

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに物語文の学習において、「はなのみち」で、挿絵と文の両方から内容を読み取っていく学習を、「おむすびころりん」と「おおきなかぶ」では昔話や民話を想像を広げながら楽しく読む学習をしてきた。読みの方法としては、場面ごとに様子や登場人物のしたことや気持ちを考えながら想像を広げたり、言葉のリズムや強弱に気をつけながら音読することを経験したり、動作化や登場人物の思いや会話を考えて吹き出しに書いたりする学習を意欲的に行うようになってきた。

しかし、表現したい思いはあっても文章を書く際に助詞や促音、拗音などの表記ができなかったり、自分で書いた文が読めなかったりする児童もいる。音読では、一斉音読やリレー音読ができるようになってきているが、まだ、句読点や文節を意識して語の意味を把握した読み方になっていないために、叙述や挿絵と結びつけることが難しい児童も見られる。

以上の実態から、本学級の児童の育てたい力は、語のまとまりをとらえて正しく読むことと、登場人物の行動を適切にとらえたり、自分の知識や経験を生かして想像をふくらませたりして表現できる読みの力であると考ええる。

(2) 単元の指導事項

児童の実態に即し、本単元では、第1・2学年「C読むこと」における以下の指導事項を育てたい言語能力として詳細にとらえ、単元を通して具体的に指導していく。

◆育てたい言語能力◆

読むこと

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。 【読(1)ア】
 - ・単語、文節、句読点などに注意して音読する。
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 【読(1)ウ】
 - ・登場人物のしたことや思い・様子を考えながら読む。

(3) 教材について

本教材は、身近な場面である体育の時間に、空に現れたくじらぐもにみんなで飛び乗るという幻想の世界に入り、想像の世界で存分に遊んだ後に、また現実の世界に戻ってくという物語である。自分たちと同じ1年生が大空を舞台として活躍するので想像を広げやすく、親しみやすい。「雲に乗ってみたい」「空の上から下の景色を見てみたい」などの思いを登場人物と一緒に共感しながら読むことのできるおもしろさがある。

また、起承転結がはっきりとしており、物語は時間的経過に沿って進められていて分かりやすく、動作化を取り入れやすい文章表現も多くあって、文章全体のリズムも快い。挿絵からも想像を広げ、登場人物と同化しながら物語の世界に浸って、楽しく音読することに適した教材であると考ええる。

(4) 単元の指導にあたって

本単元の最終的なねらいはくじらぐもや子どもたちとの交流を思い描き、想像を広げて物語作品を読む楽しさに気づかせ、進んで音読しようとする態度を育てていくことである。役割を分担して音読劇をすることは、児童にとっても学習意欲を喚起する言語活動であるとする。そこで、児童の実態と育てたい言語能力とを考慮し、以下のような単元の指導を計画した。

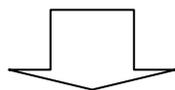
<単元を通じた言語活動>

場面の様子を想像しながら声に出して読む。

第1次(3時間)……単元全体の学習の見通しをもつ。

くじらぐもや子どもたちの行動、会話が分かるように音読活動を行い、あらすじをつかませる。印象に残った場面を出し合い、学習の最後に音読劇をするという方向性を確認し、明確な意識をもって学習に取り組めるようにする。

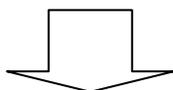
そのために、「おおきなかぶ」の学習を振り返らせて、役割分担や吹き出しの言葉を入れて《音読劇をしよう》という活動目標を単元の最終ゴールとして提示し、児童に活動の見通しを持たせる。



第2次(5時間)……作品の持つおもしろさでもある「くじらぐもと子どもたちとのやりとり」について話し合ったり、登場人物の様子を動作化したりしながら想像を広げて読む。

登場人物の行動を適切にとらえ、気持ちに同化して楽しみながら読む読み方と、物語の持つおもしろさがどこにあるのか、その構造（くじらぐもと子どもたちとの対比表現、会話のおもしろさ）をつかむ客観的な読み方とを織り交ぜながら学習を進めることが、言語能力を育てるために有効ではないかと考える。

そこで、挿絵から登場人物の行動や気持ちを読み取る活動と動作化という活動を取り入れていきたい。「くじらぐもと子どもたちとの出会い」「くじらぐもと呼びかけ合って飛び乗ることになった子どもたち」「くじらぐもととび乗ろうとする子どもたち」「くじらぐもに乗って空を旅する子どもたち」「くじらぐもと別れる子どもたち」の様子や会話などについて、動作化やリレー読みや役割読みなどの音読を取り入れ、言葉の速度や強弱に気をつけて音読練習をしていく。また、児童の想像力を十分に発揮させて登場人物の気持ちを理解するために、ワークシートの吹き出しに会話や思いを書かせるようにする。



第3次(3時間)……音読劇をする。

第2次で書いた吹き出しの中からどれを選ぶかをグループで相談して決め、音読劇にする。最後に2グループに分かれて発表し、互いによいところを発表し合って振り返りを行う。

3 単元目標及び指導計画・評価規準（読む 11時間）

単元 の 目標		<p>国語への関心・意欲・態度</p> <p>○想像を広げて物語を楽しもうとしている。</p>	
		<p>読むこと</p> <p>○好きなところを指摘したり音読したりすることができる。【読（1）ア】</p> <p>○だれが何をしたかを理解することができる。【読（1）ウ】</p>	
		<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p> <p>○会話はかぎ（「 」）を使って書いてあることを知り、句読点やかぎを正しく使うことができる。 【伝国（1）イ（オ）】</p>	
次	時	主な学習活動	評価規準（評価方法）
第1次 みとおす	1	○教師の音読を聞き、物語の大体の様子をつかむとともに、おもしろかったところを書く。 ○感想を互いに聞き合いながら好きな場面について話し合い、最後に「音読劇にする」という見通しをもつ。	【関】単元の見通しをもち、学習内容を把握しようとしている。（発言・観察）
	2	○音読をしながら、「いつ・だれが・なにをした」を押さえ、5つの場面に分ける。	【読ウ】場面の構成要素を考えながら音読している（発言・観察）
	3	○漢字や片仮名の読み方、書き方を知る。 ○語や文、地の文・会話文などに気を付けて、音読練習をする。	【読ア】語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読している（音読・観察）
第2次 ふかめる 本時	4	○子どもたちが「くじらぐも」と出会ったときの様子を話し合い、役割読みによって理解する。 ○動作化を通して様子や気持ちを想像する。	【読ウ】誰が話したことか、誰がしたことかを理解している。（発言・動作）
	5	○子どもたちが「くじらぐも」に飛び乗ることになったときの様子について話し合い、役割読みによって理解する。 ○動作化を通して様子や気持ちを想像する。	【読ウ】誰が話したことか、誰がしたことかを理解している。（発言・動作） 【伝・国】会話はかぎ（「 」）を使って書いてあることを知り、句読点やかぎを正しく使っている。
	6	○「くじらぐも」に飛び乗ろうとする子どもたちのようすと、それを応援する「くじらぐも」の様子について話し合い、役割読みによって理解する。 ○動作化を通して様子や気持ちを想像する。	【読ウ】誰が話したことか、誰がしたことかを理解している。（発言・動作）
	7	○「くじらぐも」に乗って空を旅する子どもたちの様子や会話について話し合う。 ○子どもたちの会話や気持ちを想像して吹き出しに書く。	【読ウ】子どもたちが空から見たものや会話したことを考え、音読に生かしている。 （発言・ワークシート）
	8	○「くじらぐも」と子どもたちが別れる様子や気持ちについて話し合う。 ○子どもたちの会話や気持ちを想像して吹き出しに書く。	【読ウ】「くじらぐも」と別れる様子と子どもたちが「くじらぐも」に話したことを考え、音読に生かしている。（発言・ワークシート）
	9	○これまでに書いた吹き出しを生かして、音読劇に入れる吹き出しの内容や役割を決める。	【関】想像を広げて物語を楽しもうとしている。（音読・ワークシート）

第3次	10	○選んだ吹き出しを入れたり，グループで協力して地の文・子どもたち・先生の役割を決めたりして音読劇の練習をする。	【関】想像を広げて物語を楽しもうとしている。 （音読） 【読ア】様子が伝わるように音読している。 （音読）
ひろげる	11	○グループで協力して，音読劇の発表をして音読劇をする。	【関】想像を広げて物語を楽しもうとしている。 （音読） 【読ア】場面の様子を想像しながら音読している。 （音読・感想発表）

4 本時の指導（7／11時間）

（1）目標

くじらぐもに乗って空を旅する場面を読み取り，子どもたちの様子や気持ちを想像することができる。

（2）指導の手だて

研究主題と関わり，本時では，考えを形成し表現できるようにするために，以下のような手だてを組む。

- ① くじらぐもの上で楽しんでいる子どもたちの心情に迫るために，挿絵を使って様子や会話の内容を話し合わせる。
- ② 友達の発表を聞きあうことでさらに想像をふくらませて，子どもたちの様子や会話を考えて吹き出しに書かせる。

（3）展開

	学習内容（番号）と主な発問・指示○	指導上の留意点 ◎【評価】（方法）
みとおす 8分	<p>1 前時の学習を想起する。 ○前の時間は，子どもたちがくじらぐもに飛び乗ることになったときの様子を学習しました。今日は，その後の様子を勉強します。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>子どもたちといっしょにくじらぐものって，空のたびをしよう。</p> </div> <p>3 解決の見通しを立てる。 ○4場面を音読して確かめましょう。どんな気分かな，どんなものが見えるかな。たくさんお話ししてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・空の旅をする場面であることを確認する。 ・集中力や意欲を高めさせるために一斉読みをした後で，挿絵を見て空の様子とくじらぐもの上にいる子どもたちの様子や表情に着目させる。
ふかめる	<p>4 学習課題を解決する。 ○みなさんは，くじらぐものどこに乗りたいですか。みんなで乗りましょう。</p> <p>○歌を歌っています。どんな気分ですか。 ・ふわふわしている ・きもちがいい ・すごく高い ・うれしい ・たのしい ・元気が出る ・わくわくする</p> <p>○子どもたちは，くじらぐもと一緒にどちらの方に旅をしましたか。</p> <p>○海の方では，どんなものが見えますか。 ・船 ・港 ・つりをする人 ・貝 ・魚 ・泳いでいる人 ・砂浜</p> <p>○村の方では，どんなものが見えますか。 ・池 ・川 ・田んぼ ・畑 ・家</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の絵をくじらぐもの挿絵に貼り，雲の上の様子を想像する。 ・気持ちを表す言葉を取り上げ，黒板にまとめていく。 ・くじらぐもはどこへ行ったのかを児童に発言させながら，教師が黒板で整理する。 <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> うみのほうへ まちのほうへ むらのほうへ 進んでいったことを確認させる。 </div> ・児童から出された言葉を板書する。

<p>ふかめる</p> <p>30分</p>	<p>・トンネル ・ビニルハウス</p> <p>○町の方では、どんなもの見えますか。</p> <p>・ビル ・デパート ・たくさんの人や車</p> <p>・電車 ・ショッピングセンター</p> <p>○くじらぐもの上から見たものや、どんなお話をしているのかを考えて、隣同士で話しましょう。</p> <p>○今、隣同士で話したことをもとにして、子どもたちの会話を吹き出しに書きましょう。</p>	<p>・隣同士で対話することで、考えをまとめさせる。</p> <p>・自分や友達が話したことをもとにして、子どもたちの会話の内容をワークシートに書かせる。</p> <p>・板書の中から自分の考えに近い物を使って書いてよいことを確認する。</p> <p>◎【読む】子どもたちが空から見たものや会話したことを考え、音読にいかしている。 (発言・ワークシート)</p>
<p>まとめ</p> <p>7分</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 本時の学習をまとめる。</p> <p>○吹き出しに書いたことを付け足して、音読してみましましょう。</p> <p>○学習の振り返りをしましょう。</p> <p>(2) 「学び方」を確認する。</p> <p>(3) 次時の学習について知る。</p> <p>○次の時間は、くじらぐもとお別れするときの様子を学習しましょう。</p>	<p>・地の文をみんなで読み、指名された児童が吹き出しの内容を付け足して読むことを確認して、音読させる。</p> <p>・吹き出しの言葉について感想を述べさせる。</p> <p>・くじらぐもの上で楽しんでいる子どもたちの会話や気持ちを、吹き出しに書くことができたかを評価させる。</p> <p>・課題解決のためにどのような活動をしたかを確認、学び方を振り返る。</p> <p>・お別れするときに、どんな話をしたかを考えて吹き出しに書くことを予告する。</p>

(4) 本時の評価

評価 (評価方法)	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する 児童への手だて
<p>(ワークシート)</p> <p>子どもたちが空から見たものや会話したことを考え、音読に生かしている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>	<p>子どもたちが空から見たものや話したことを想像し、「うみ」「むら」「まち」の3つの吹き出しに書いている。</p> <p><期待される児童の例></p> <p>・海に船がたくさんうかんでいるよ。のってみたいね。山がみえる。鳥はいるかな。大きなたてものが見える。人がたくさんいるね。</p>	<p>子どもたちが空から見たものや話したことを想像し、「うみ」「むら」「まち」のうちの2つの吹き出しに書いている。</p> <p><期待される児童の例></p> <p>・青い海がきれいだね。村には池や川があるよ。町には電車がはしているね。 などから2つ。</p>	<p>挿絵を見ながら、空から「うみ」「むら」「まち」をながめて、見えたものを考えさせる。</p>

(5) 板書計画

くじらぐも
かだい

ながわりえこ

子どもたちといっしょにくじらぐもにのって、
空のたびをしよう。

青い空を進む
子どもたちとくじらぐもの挿絵

うみのほうへ

むらのほうへ

まちのほう

空から見えるけしきの挿絵

- ・きもちいい
- ・うれしい
- ・たのしい
- ・げんきがでる
- ・ふわふわ

まなびかた

- ・さしえをみる。
- ・みたことやそこでしたことをおもいだす。